

基礎データ

【人口】1,690人(H20.10.31現在)

【世帯】447世帯(H20.10.31現在)

【面積】約650ha

【公共施設】高松保育園・高松小学校・赤羽根文化広場

【史跡】高松新井化石層

【主な産業】農業

●校区自己紹介④

高松

●大正池

「渥美半島キラリ100選」にも選ばれた美しい池。

校区の特色

高松校区は渥美半島の南側中央に位置し、集落は校区の南側を東西に走る国道42号に沿って、細長く形成されている。中央から北側にかけては、温室・ビニールハウスが建ち並ぶ緑豊かな田園地帯となっている。校区内の多くの世帯は、施設園芸を中心とした農業に従事している。

校区の自治組織は、一色・西脇・中村・谷倉・東脇・新井の6組で構成されており、組長会が事業の企画立案と執行、区会が審議・議決機関として設置されている。

未来を担う子どもたちと、高松を支えてきたお年寄りという宝を大切に、「人と人 人と自然 絆を育むまちづくり」を将来像として、校区のまちづくりを進めている。

ふれあい教室に二人の元世界チャンピオン

平成20年1月に校区青少年健全育成会主催による「ふれあい教室」で、元WBC世界スーパーバンタム級チャンピオンの畑中清詞氏をはじめ、元WBA世界ミニマム級チャンピオンの星野敬太郎氏や現役のボクサーを招いて、ボクシン

グ講座を開催した。初心者を対象にした元世界チャンピオンや現役のプロボクサーによる出前講座は、異例中の異例とのことだったが、子どもたちが世界一流のスポーツマンとふれあうことによって、生き方や考え方を学んでほし



●ふれあい教室

いと企画した。

2人のチャンピオンは、「勉強でもスポーツでも、自分の好きなことをあきらめないで頑張り続けてほしい」と呼びかけた。

駄ボラ吹きと言われようが豊川用水に生涯をかけた郷土の偉人「近藤寿市郎」

渥美半島のみならず、東三河地域の農業・工業をはじめ、人々の暮らしや命を支えている豊川用水。幾度とない干ばつに悩む渥美半島に豊川の水を引こうと考えたのが、わが郷土、高松町生まれの

政治家近藤寿市郎(1870年～1960年)である。彼は、大正10年(1921年)に視察したジャワ島の農業水利事業をヒントに、鳳来寺山に大貯水池を設けて渥美半島の先端まで水路を引くという計画を提唱した。あまりにも夢のような話だったため、「近寿の大ボラ」とも言われたが、実現のため愛知県議会、帝国議会へと東奔西走した。その甲斐があって、構想から約50年を経た昭和43年(1968年)、夢の用水は完成した。しかし、近藤寿市郎は、この完成を見ずに昭和35年に亡くなった。

赤羽根文化広場の丘に建てられた彼の立像は、豊川用水の流れと郷土高松を静かに見守っている。

(文:高松校区)



●近藤寿市郎の立像